

希望坂(北中だより)

第10号 令和7年3月12日

みやき町立北茂安中学校

校長 古賀 健司

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>



学校教育目標



「夢や目標をもち

チャレンジ精神と思いやりの心に

満ちあふれた生徒の育成」

◇卒業式◇

3月7日(金)、第78回卒業証書授与式を挙行了しました。生徒たちの成長した姿や晴れやかな表情、発する言葉の中に、これまで愛情をもって関わっていただいた多くの方々への感謝、将来に向けた決意があふれ、素晴らしい式となりました。

町議会議長様はじめ、ご来賓の皆様にお祝いと激励のお言葉をいただくことができました。私も、わが校の誇りである生徒一人一人に「おめでとう」の思いを込めて卒業証書を授与しました。



式辞(抜粋)

北茂安中学校を巣立っていく八十五名の三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、授与した卒業証書には「中学校の課程を卒業したことを証する」とあります。「中学校の課程」とは、義務教育で学んだことすべてを指します。

例えば、外国の方に英語で話すもす館までの道順を案内する。「自分の考えを5分間話せ」と言われたら、組み立てとキーワードを考へるくらいの短い準備で顔を上げて話す。パルーン大会がなぜ冬の朝に行われるのか、「密度」などの言葉を使つて説明する。

生活のあらゆる場面で直面した課題に対して、情報を集め、対処法を考えたり、周囲の人の意見を聞いたり、協力してもらったりしながら、粘り強く、解決への道を探るといったことができるということなのです。

これらのことができるようになるために皆さんはよく学びました。これまで身に付けたことがこれから生涯学び続けるための基礎となることを信じています。

また、本校の教育目標は「夢や目標をもち、チャレンジ精神と思いやりの心に満ちあふれた生徒の育成」です。アンケート結果では、今年度「将来の夢や目標を持つている3年生」77%、「積極的にチャレンジした3年生」93%、「思いやりのある言動ができ3年生」90%でした。

「夢や目標」は自分が進む方向を明確にし、「チャレンジ精神」は自分の可能性を広げ、「思いやりの心」は仲間との信頼関係を強固にするだけでなく、人としての「自分の価値」を信じる力ともなります。卒業後も大切にしてください。

ところで、岩手県の大船渡市では大規模な山林火災が発生し、現在、多くの方が不安を抱えながら避難生活を送られています。

そのような中、地元の中高生が避難所に足を運び、ボランティア活動をしているというニュースが流れていました。

「私や家族も東日本大震災のときに助けてもらったから、今度は私がお手伝いしたい...」自分自身も再び被災し、親戚の家に避難している中学生の言葉に、胸が熱くなりました。そして、苦しんでいる方を笑顔する姿に「希望」を感じました。

「希望」という言葉には、さまざまな捉え方がありますが、私は「希望とは、自分に対して求める未知なる力」という言葉を思い浮かべます。英語では「自分がどうありたいか」という B・E・I・N・G (being) です。

この中学生は「困っている人のために、自分が何かしたい」という思いをもち、行動しています。「希望」を持つことができる人は、「自分がどうありたいか」という強い思いをもち、困難な状況であっても行動し、自分と周囲の人を支えます。

卒業生の皆さんも「希望」ともつことができるとです。なぜなら、私は1・2年生から「体育大会」のとき、最後まであきらめない先輩、仲間感謝する先輩が「よかった」「みんなのために頑張っている生徒会の先輩たちはすごい」「困ったときに部活の先輩が声をかけてくれてうれしかった」といった言葉を何度も耳にしました。

これらの言葉は「自分も、こうありたい」という尊い思いにつながっており、まさに「希望の種」です。皆さんは、自分たちの行動で、この「希望の種」を蒔いてきたのです。これから「希望の種」を蒔き、育て、美しい花を咲かせてください。

皆さんが社会のリーダーとなる日はすぐそこです。今後の活躍を楽しみにしています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。病气やけが、親としての悩みなど、様々な苦勞があったと思います。義務教育を終えて卒業する姿をご覧になり、今は感無量のことと拝察いたします。

昨日、3年生担当の先生が、今日の準備をしながら、子ども達の3年間の成長を、映像で見て涙を流していました。私たち教職員も、この日を迎えることができた喜びと、かけがえのない存在となった3年生を見送る寂しさを感じています。

このような幸せな瞬間を味わうことができるのは、心配なことがあっても本校職員を信じ、ご支援、ご協力いただいた保護者の皆様のおかげであると感謝しています。あらためて心からお礼申し上げます。

最後に、本校の誇りである卒業生一人一人に幸多からんことを祈念し、学校長の式辞といたします。

◇令和6年度「北茂安中 献花の日」◇

2月17日(月)、今から43年前、当時小学校5年生だった西山久美さんの命をしのび、花を手向(たむ)ける「献花」を行いました。本校がこの取組を行っていることを久美さんのご両親が初めて知ったとのことで、(当日お父様の体調が思わしくなかったため)お母様が参加されました。

ご持参いただいた久美さんの当時の写真を拝見しながらお話を伺うと、今なお、癒えることのない悲しみが伝わってきて、やるせない気持ちになりました。そして、このような悲劇が二度と起きてほしくないとの思いがこみ上げてきました。

生徒会長の○○○○さんと副会長の○○○○さんが、生徒を代表して花をお供えするとともに、久美さんやご家族、安全に尽力してこられた地域の方々に思いを馳せながら、決意を述べました。



追悼の言葉(抜粋)

今から43年前の1982年、西山久美さんの命が、未来が奪われました。帰宅を待ちわびていたご家族の願いも叶わず、帰らぬ人となってしまいました。その時のご両親の悲しみ、怒り、喪失感は筆舌に尽くし難いものだったはずです。

私の父は、久美さんと同級生で、私は小学校低学年の頃からこの事件のことを知っていました。でも、初めて聞いた当時はこの事件について深く考えることは難しかったです。学年が上がり、中学に入ると、「献花の日」が行われていることを知りました。小学生のときは、まだあいまいだった命の尊さを中学生になって改めて深く学ぶことができました。

歴代の先輩方は、この出来事から何か自分たちにできることはないかと考えたとき、一つの教訓をつくりました。それは「自分の命も、他者の命も当たり前存在しているわけではないこと、だからこそ尊く大切なものであること」ということです。そして、それは今でも受け継がれています。

今日、西山久美さんの命日に、私たちは先輩からの想いを受け継ぎ、大切に守っていきたいと思います。そして、次の学年、次の世代への伝えていき、自分だけでなく周囲の人たちのことも大切にしていきたいと思えます。

最後になりますが、西山久美さんの、そして歴代の先輩方、地域の見守り隊の方々の思いを胸に、追悼の言葉とします。

◇佐賀県教育委員会事務局 東部教育事務所表彰(生徒会)◇

「みんなを笑顔にしよう」と、日々、頑張ってきた生徒会の活動に対し、佐賀県教育委員会事務局東部教育事務所から表彰状をいただきました。

新生徒会も、笑顔をさらに広げてくれています。



「グータッチ・デー」… 生徒会役員が、笑顔と挨拶、グータッチで、登校する生徒を出迎えます。

